

畜産

【酪農】牛検（牛群成績表）の見方 根室振興局より

1 検定日乳量階層情報

1 p 目に初産・2産以上と、検定日数別に乳量と乳成分等の状態が記載されています。平均乳量を乳量階層図の中にするしをつけて、泌乳曲線を描き、49日以下と50日以上の間くらいにピークが来る山型の曲線になると理想的です。分娩後から泌乳ピーク期にあたる100日以下の時期に20kg以下の牛がないかチェックしてみましょう。特に泌乳ピーク期にワクの中に入るような個体は問題です。泌乳初期の乳脂肪率が5%を超えるような値になっているときは、牛が体脂肪を動員して乳を出している状態を示しています。分娩後・泌乳初期の乳蛋白率の数字を注意して見て下さい。事例のように乳蛋白率が3.0を切っているようであれば、乾乳期管理を見直してみましょう。これらの注意点にあてはまる事項や牛を見つけた場合はボディコンディションや餌の食い込みの様子を観察し対策を講じましょう。

2 繁殖管理情報

(1) 空胎日数・乾乳日数

平均目標として空胎日数：85～115日（分娩間隔 365～395日）、乾乳日数：60日程度を目指すようにしましょう。空胎日数が1日延びると1,000円から1,200円の損失といわれています。平均乾乳日数目標は60日程度ですが、特に39日以下の欄には数字の記載がないようにしましょう。乾乳期が50日より短くなると次期乳期の乳量の減少が起こります。○**初産分娩月齢** 初産分娩月齢が短くなることにより、更新のための必要育成牛頭数を少なくすることが可能になります。また、育成牛に掛かる経費（餌代、労力、施設）を節約できます。

【肥育牛】肥育前期（「俵牛づくりに挑戦しよう」より）

1 飼養管理等

- (1) **素牛導入当日** 新しい敷料を入れた牛房で扉を閉めて、ゆったりと休ませます。新鮮な水と乾草を与えます。濃厚飼料は翌日からです。
- (2) **導入時の処置** 体重測定、健康確認、耳標確認、ビタミンA剤（50万から200万）、アイボメクトピカルなどのイベルメクチン系薬剤かサイデクチンなどのモキシデクチン系薬剤、ワクチン、皮膚病感染にネオサルセリンなどの硫黄剤かナナオマイシンなどの抗生剤の塗布、機械器具の消毒には塩化ジデシルメチルア

ンモニュウム剤などの 100～200 倍、陰毛に白い付着があり尿石が心配ならカウ
ストーンなどの投与、水槽の清掃を行います。

(3) 飼い直し 導入直後、濃厚飼料を食べない牛に対しては、給与後 20 分ぐら
いたら残った飼料を取り上げて、これを数回繰り返します。

過肥で粗飼料が食い込めていない牛は、導入後 2 か月間は去勢で 5 kg、牝で 4 kg
の粗飼料を食い込ませます。この時期、牝へのビタミン A の高い飼料は控えめに。
3 種類の粗飼料を 1 日 3 回に分け、カットしたものを食べる分だけ、常に新鮮な
ものを与えます。濃厚飼料は 3～4 kg が標準、大豆粕と糟糠類を高めに給与し
ます。

【繁殖和牛】 繁殖供用開始期 やまがたの和牛増頭戦略プロジェクトチームより

1 繁殖供用の開始

繁殖供用（人工授精）は以下の 3 つの条件を満たした時期から始めます。

◎12 カ月齢以上◎体高 124 c m、体重 330 k g 到達。◎3 回以上の発情確認と発情間
隔が 21 日前後に安定。

2 再発情の観察

人工授精後の次回発情予定日前後は十分に観察し、発情兆候を示さなければ受胎して
います。明瞭な発情兆候が見られる場合は、不受胎と見なし再度人工授精します。なお、
未経産牛での授精には、難産を防止するため、生時体重が大きくなる大柄な種雄牛の精
液は使わないようにします。また、受胎しても希に弱い発情様兆候を示す場合がありま
す（示す場合であってもスタンディングは見られない）。

3 妊娠鑑定

妊娠鑑定は授精後 2 回目の発情予定日以降に実施します。超音波診断装置が利用でき
れば、それ以前（授精 4 週後以降）の早期妊娠診断も可能です。ただし、妊娠初期は流
産のリスクも高いため、受胎確認をしても安心せず、その後も継続して日常の観察をし
っかり行います。